

第17回企画展「水城大野城調査研究事始め」

(会期:平成25年11月19日(火)~26年1月13日(月・祝)) 解説シート①



書き留められた水城と大野城

— 紀行文・絵画資料などにみる —

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

はじめに

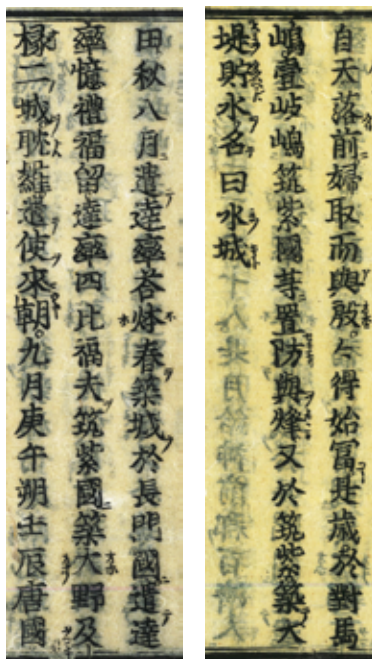
養老4年(720)に成立した日本最初の正史である『日本書紀』の天智天皇2・3年(664・665)の条には663年の白村江の戦いに敗れた翌年、対馬・壱岐・筑紫国に防人と烽を置くと共に、筑紫国に水城を築き、その翌年に大野城、基肄城を築くと記されています。これが現在、国の特別史跡に指定されている水城跡と大野城跡が文献上に初めて記載されたものです。

平安時代末頃に大宰府が廃絶した後も、主に大野城は後に置かれた四王院を由来とする四王寺山とし

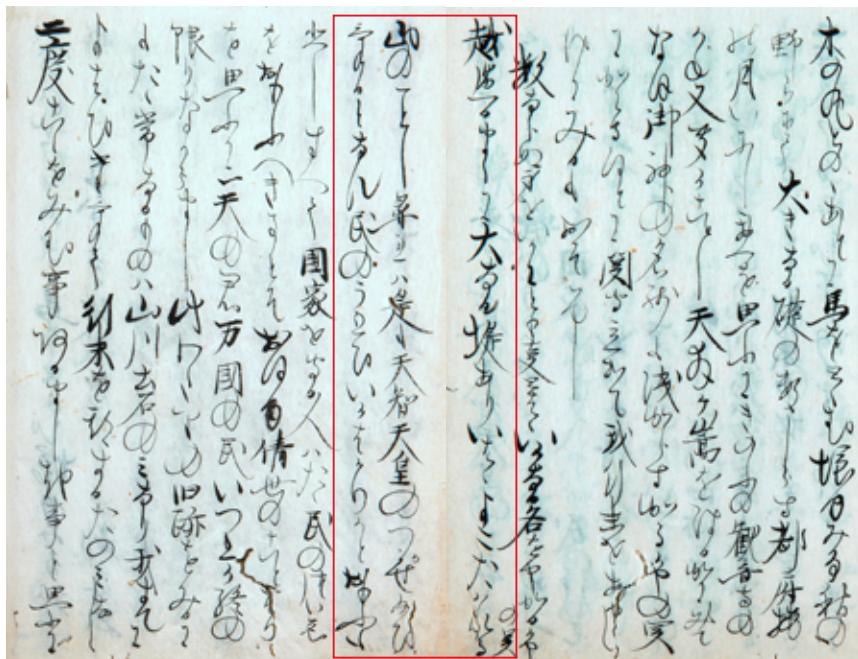
て記憶されるに留まったのに対して、水城は平地に築かれて非常に目立つ存在であったため、中世から近世を通じ、様々な和歌や紀行文に登場しました。そして近世には太宰府天満宮参詣、すなわち「さいふ詣り」の隆盛に伴い、四王寺山も水城も太宰府名所の一つとして絵画資料に多く登場しました。また、近代以降も、太宰府名所の一つとして、絵はがきの素材にも採りあげられました。ここでは、それら後世に書き留められた水城と大野城を紹介します。

1 『筑紫道記』に記された水城

連歌師宗祇が九州を旅行した際の紀行文『筑紫道記』には、太宰府天満宮に訪れた宗祇が、博多へ行く途中に都府楼跡、水城を見聞し、「越え過ぐるまに大きな堤あり。いわばよこたわれる山のごとし。尋ねれば是も天智天皇のつかせ給ひけるとなん・・・」と言っています。平地に堂々とそびえる水城の堤は、宗祇の目には、まさに山のように巨大に映ったのでしょう。残念ながら大野城についての記載はありません。



日本書紀(江戸時代版本)
上は全体、下は水城と大野城の記載部分



筑紫道記 (文明12年(1480)(江戸時代写) 宗祇著(青柳種英写) 宗像大社蔵)
※枠囲みは水城の記載部分

2 近世絵画などに描かれた水城・大野城

ここでは、江戸時代に水城・大野城が描かれた資料を紹介します。

(1) 太宰府旧跡全図(北)

南・北図の2図からなり、北図は、太宰府天満宮門前、四王寺山^{しやうおうじさん}一帯を描きます。現在では知られなくなっている古跡も多く記載され、分からなくなっていた城門なども描かれています。

(2) 筑前名所図会

筑前各地の名所^{なう}を記したもので、説明と共に挿絵を描いたものです。「西都図第四」には、左に水城の土塁^{どるい}を、右に四王寺山^{しやうおうじさん}を描きます。「鬼の硯石^{おにのえんし}」には日田街道脇の水城東門礎石と通行人がみられます。

(3) 西都旧跡十二景

太宰府の12の景勝地を和歌や漢詩と共に風景を木版刷りしたものです。水城は藤原高遠^{ふじわらのたかとお}の和歌と共に北側から東門跡や土塁のある風景を描き、大野城は四王寺山として描かれています。

(4) 筑前名勝画譜

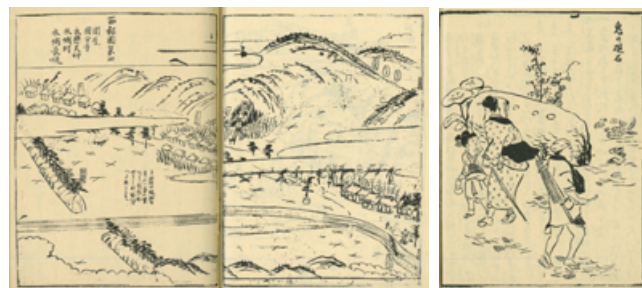
筑前、特に太宰府周辺の名勝を描いたもので、水城は東門跡付近を北側から俯瞰して描いています。この他、「四方(王)寺山」の絵はありますが、大野城としての記載はありません。

3 近現代の水城・大野城の絵はがき

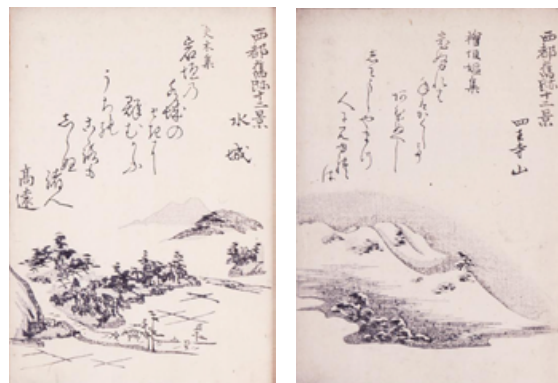
近現代には、水城・大野城を写した絵はがきや写真カードが発行されます。いずれも太宰府天満宮や都府楼跡に関わる観光地を集めた絵はがき集の一枚として挿入されています。(学芸調査室 岡寺 良)



太宰府旧跡全図(北)(複製)(原資料は個人蔵)



筑前名所図会(左:西都図第四・右:鬼の硯石 福岡市博物館蔵)



西都旧跡十二景(左:水城・右:四王寺山 福岡市博物館蔵)



筑前名勝画譜(水城関跡 国立公文書館蔵)



写真カード(大野城跡 個人蔵)



絵はがき(水城跡 個人蔵)



編集

発行: 平成25年11月19日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>